

2011年3月11日（金）の東日本大震災に対して、行ったボランティア活動について報告する。

1. 岩手県陸前高田市

1. 1. 日時

2011年4月5日（火）

1. 2. 目的

NPO 法人ハッピージャパンプロジェクト（HJP）の活動として、9人で陸前高田市の避難所となっている小学校で、300食のラーメンの炊き出しを行う。人形焼き 500個やおせんべいやお菓子やマスク、自転車7台等の物資を陸前高田と気仙沼に届ける。子供たちに多少の本をプレゼントする。気仙沼市で津波に襲われた友人宅の畳や家財道具一式を屋外に運び出し、廃棄する。また、車いすの寄贈プロジェクトの関係で、陸前高田市の施設に3台の車いすを、気仙沼市の施設に4台の車いすを運び込む。

1. 3. 日程

4月3日（日）

13時 つくばフレッシュやおかねで万能ねぎ 60束をもらう

14時 西新井どにち家に万能ねぎを届ける

4月4日（月）

19時 つくばフレッシュやおかねでもやし 8kgをもらう

21時 2tトラックで西新井を出発（田口真吾，羽賀君，伴君）

22時半 三軒茶屋集合・出発（小堀光由，島田薫，池永憲彦，佐藤真海，真海ママ，篠原）

4月5日（火）

2時 安達太良 SA で合流

7時 陸前高田市長部小学校到着

8時半 ラーメン炊き出し準備開始（テント組み立て，出汁取り）

10時 本の展示開始，車いす3台お渡し，自転車7台お渡し

11時 炊き出し開始

13時 炊き出し終了，子供たちと遊びまわる

14時半 気仙沼住宅内の大型家具等の搬出

17時半 車いす4台お渡し

4月6日（水）

3時半 上野着，サウナ泊

7時半 自宅着，出勤



1. 4. 現地での活動について

・ラーメンの炊き出し

尾道ラーメンを長部小学校で300人近くの人にふるまった。11時からの開店に向けて、8時半からテントの設営、コンロの設置を行い、その後すぐに昆布や鰹節、鳥がら等による出汁作りを始めた。

11時の開店まで、早く食べたがる子供たちとブランコや追っかけっこやガムテープ遊びなどをして楽

しんだ。11 時前から長い行列ができ始め、ラーメン炊き出しが始まった。ラーメンをゆでる、解す、スープを作るのは、どにち家のスタッフとして普段からラーメンを作っている池永、田口、羽賀、伴の 4 名。テント横のテーブルに移動して、希望を聞いた上で、具として、茹でたもやし、刻んだ万能ねぎと瀬戸内海の海のみり、チャーシュー、胡椒入れた。もやしとねぎは、つくばの八百屋『フレッシュやおかね』から無償で提供していただいたもの。大人は、全部入れる人がほとんどだったが、子供はねぎはいらないと言う子が多かった。途中からは、子供たちが分担して、それぞれの具材と箸渡しを行った。幼稚園年長から中学生までの子供たちとワイワイガヤガヤラーメン作りという感じで、とても楽しかった。途中でしばし休憩した男の子の、「少し休憩入らしていただきまあ〜す!!!」とちょっと大人びたセリフや、親御さんや先生たちがラーメンを取りに来た時の「バイトで働き中働き中、無償だけどねえ〜」「迷惑なんか掛けずに、ちゃんと働いてるよお〜!!!」などという自慢めいたセリフなど、非常に微笑ましかった。

子供からおじいさんおばあさんや消防団の人たちまで、多くの人がスープまで飲み干していて、みんな揃って美味しかった美味しかったと喜んでもらったので、「ありがとうございます」「喜んでいただけて嬉しいです」という言葉を何十回言ったか分からないほどだった。地震・津波以来、温かいものを初めて食べたとおっしゃる方もいらっしゃって、避難所生活でのおにぎりやパンの毎日に倦んでいた人もかなりいたように思われた。まあ、子供は素直なもので、一番最初に食べた 10 人ほどの中の数人の女の子は、口をそろえて「メッチャ美味しいけど、麺が固あ〜い」との苦情の合唱。そのため、こちらは慌てて厨房に行き、「子供向けには少しゆで時間長めにっ」との修正を入れることができた。中には「俺は固めの麺が好きだからちょうど良かったもんねっ」等とフォローしてくれる子供もおり、こちらとしては感謝しきり。

もやしは、途中で大判振る舞いで入れ過ぎたせいか、終盤に尽きてしまった。逆に、ねぎはいらないという子供が多かったことから、1/3 程余ってしまった。余ったねぎは、避難所に提供して、夕飯にでも使ってもらうことにした。





・青空図書館

5日の朝に、ランニング仲間の岸さんから、「もう子供たちへの炊き出しに行きましたか？ 言ってなければ、本を集めて子供たちにプレゼントしたいのだけど」というアイデア込みのありがたいメールを頂いたのをきっかけに、小さいながら青空図書館を開設することとした。持って行く本は、職場で隣に座っている鈴木さんにお子さんの小さい時の本などを昼休みに取りに帰っていただき、現地に持ち込んだ。HJPだけでなく、多くの人の支えの元で、被災地に元気を届けることができていることを実感でき、とても温かな気持ちになれた。

興味がある本があれば持って行ってもらい、読み終わったら他の友達にも回して貸して回るという約束で、最終的に15冊を子供たちに渡すことができた。

クイズや将棋の本などはすぐに欲しい欲しいと手が伸びた。また、読む人いるかな？と疑問視していた、作文がうまくなる本などの勉強に少し関わる本なども手が伸びやすかった。要望が多くても持っておらず対応できなかったのは、幼稚園の子が読みたくなる絵の多い本や絵本や短くてすぐに読める本。長くて難しい本よりも、軽くて手軽に読める本の希望も多かった。



・子供たちとの遊び

グラウンド上の車の数も少なく、また仮設住宅等も建てられていないことから、子供が遊ぶ場所は大きく確保されていた。サッカーもできたし、ブランコか様々な遊技で遊びまわることができた。これは多いに喜ばしい。今後、各地で仮設住宅の建設が始まるが、整地された広いスペースがなかなかないということから、学校の校庭に建設されることが多くあるだろうが、何とか子供たちが走り回れるスペースや遊具を残してほしいものだ。子供たちの明るさ、元気の良さは、周りのみんなに勇気と元気を与えてくれる。失わせてはならない。ただ少し気になったのは、阪神の時にも感じたのと同じだが、少し乱暴さが増しているように感じられる子が多かったことだ。明るくしていても、大きなストレスが掛っており、限界に近付きつつある子も多いかもしれない。「家は流されて、、でもお母さんとお兄ちゃんに会えて嬉しかったの」と突然呟く女の子の横顔は、一瞬とてもとても不安げだった。



・自転車や車いすの寄贈

自動車を流された方も多く、自転車は非常に喜ばれた。小学校に避難されている方の人数に比べて、グラウンドに停められていた自動車の数が少なく、



津波で車を流されてしまった方が非常に多いことを想像させられた。車いす

については、陸前高田市の医療法人勝久会の方が来られたので、3台をお渡しした。また、気仙沼市でも、特別養護老人ホームキングスタウンに4台の車いすをお渡ししてきた。不自由をされているお年寄りの方々が、この不便な環境の中で少しでも快適に過ごしていただければと思う。

・津波で被災した家の中の片づけ

気仙沼の港から少し入って上がったところにある住宅の片づけをした。中のものは、外に出さないと市に処分してもらえないとのことで、一階にある大物の家具や家電を全て二階までは水は入らなかったが、一階は津波でとんでもない状況になっていた。大きなタンスが倒れ床板が剥がれ、畳も散乱。畳が水を吸って分厚く、そしてとても重くなっていた。冷蔵庫も中に水が入り、ひどい状態に。多ものだけを外に運び出すだけで、散らかった泥にまみれた部屋の中をきれいにすることなく終えた作業ですら、元気な8人が2時間以上掛かった。疲れ切った被災者が、自分で片付けようとしたら、どれだけ掛かることか想像もできない。そんな中、近所の方が差し入れだと言ってカップ麺や水などを持ってきてくれた。自分も大変なのに人に気遣いができる優しさに、胸が熱くなった。人の優しさって、本当に素晴らしい。

1. 5. 被災地の被災状況について

5年ほど前に自転車旅行した懐かしい道を走り、トンネルを抜けたところで突然目に飛び込んできた津波の爪痕。明らかに住宅街だったところが、一面瓦礫の山と化していた。リアス式海岸のアップダウンを繰り返すたびに海沿いの集落の惨状が広がる。海の見えないところでも、山を回りこんで波が来たのだろう、オイルタンクや船など、ここに存在するはずもないものが、しかも大型のものがそこから中に転がっている。車が折り重なってひっくり返っている。山の斜面も、木をなぎ倒しながら津波が駆け上がった跡が見られる場所もあった。鉄筋コンクリートらしき建物も壁が落ち、金属部分がめくり上がり、傾いている。言葉を失うしかない光景。港の傍では、どこから流れてきたのか、漆喰で塗り固められた重そうな蔵も傾いたまま瓦礫の上に乗っかっていた。

陸前高田市に入り目の前に高台が見えてきた。その上にぽつんと小学校らしきグラウンドと建物が見える。そこが今回の炊き出しの地、長部小学校。その高台の手前も奥も、周り是一片瓦礫の山。以前は住宅地だったのだろう、家の基礎だけ残っているところや、風呂場の一部だけ残っている残骸なども見られる。細いがれきの間を縫って小学校まで上がる。小さな高台の丘、周り是一片津波で流されていた。「ねえねえ、こっから良く見えるんだよ、津波の跡が!!!おいでっ」無邪気に話す幼稚園児の男の子に引かれて行ったトイレ裏のフェンスから見下ろせた津波の跡。子供たちは、そして大人たちも、11日にここから津波が押し寄せのを見ていたのだろうか。自分たちの家が押し流されるのを見てることが、どれだけ辛かったか、想像もできない。

気仙沼の街は、主要な道路はかなり通れるようになっており、大きな損傷のなかった家屋では瓦礫等の撤去作業が始まっているが、倒壊家屋に関してはまだまだ作業の手をつけられないといった状況。市役所の前の通りまで波が来たようで、津波の跡があちらこちらで見受けられ、廃棄するために外に出

された家財道具が並んでいた。港の傍に行くと、片っぴしから家が崩れている。信号や電柱が、倒れたり、立ったまま真ん中からぼきりと折れたりして、中から鉄骨がのぞいている。家の半分が流れ、まるで模型のように二階の子供部屋が半分だけ残って中が見えているような家もあった。大型船の船もあちこちに転がっている。



1. 6. 感想, その他の進捗状況等

子供たちの笑顔は本当に素敵だ。彼ら彼女らが、元気に大きくなって、陸前高田や気仙沼の復興の支えとなり、これからの日本を創っていってくれることを心から願う。またねと約束した。他の所の子供にもラーメンや笑顔を届けたいが、彼らの顔はまた一度見に行きたいと思う。一刻も早い避難所生活の終焉が望まれる。仮設住宅を建てる用地をどうするかが第一の問題。学校の校庭が候補となるが、子供たちの遊びまわる環境がなくなることになる。ただ、仮設住宅を建てる地点を探すことに時間を取られていると、教室が開かないために授業がいつまでも再開できず、それも問題だろう。

炊き出しは、スープを作ってゆでた麺を入れるスペースと具を入れるスペースを分けたことが大変良かった。具を入れるスペースでは、火を使わない安全な場所で子供たちに作業を手伝ってもらうこともできた。効率的なスペース設置と、子供たちとの共同作業は非常に良かったので、今後もメニューを変えたとしても、同様の工夫を検討したい。ただ、今回は炊き出しをするという情報が避難所の本部まできちんと伝わっていなかったのは課題だった。まだ、炊き出しが多く入ってきていないことから、他の炊き出しとはかぶっていなかったのは運が良かったが、今後は日程を先方とすり合わせる事ができているかを現地にきちんと確認しておくことが必要。

津波の被害に会った住宅内の片づけは、今後多くの労働力が必要だが、気仙沼の中心部は倒壊の危険性のある住宅も多く、まだまだ多くの片づけボランティアを受け付ける環境にない。ただし、重機などによる整理が進んでからでは、他地域へ移動したいと言う人にとっては遅すぎるだろうし、何らかの方法を考える必要がある。

帰りに、2tトラックのミラーを破損してしまったのは大失敗。

南相馬市への車いす計8台送付の件は、電話連絡等で手配が完了した。

